

経営比較分析表（令和4年度決算）

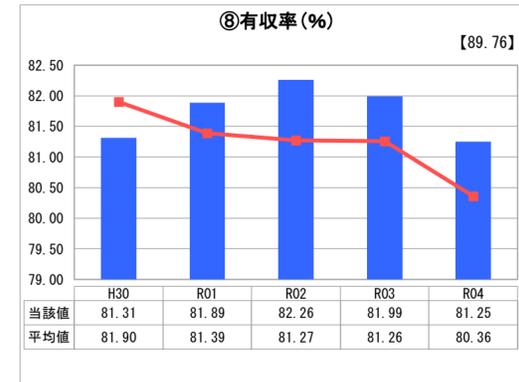
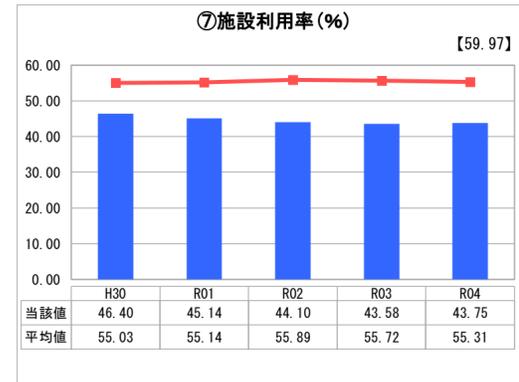
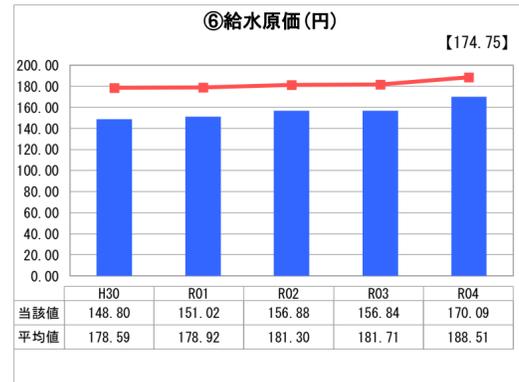
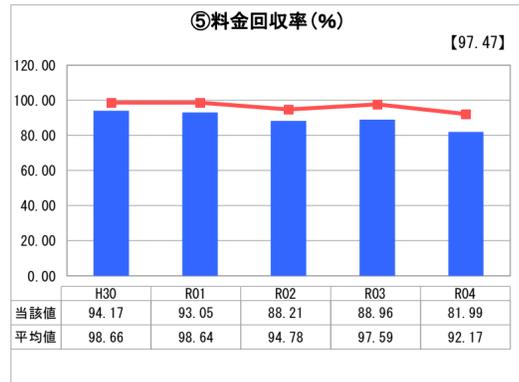
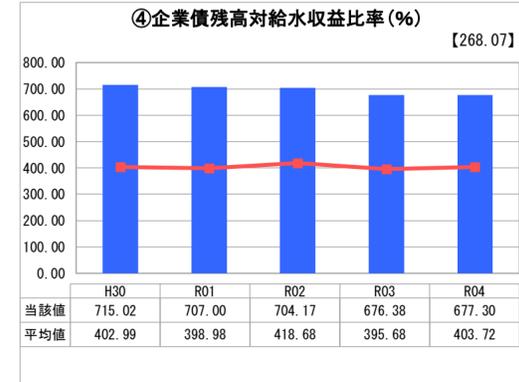
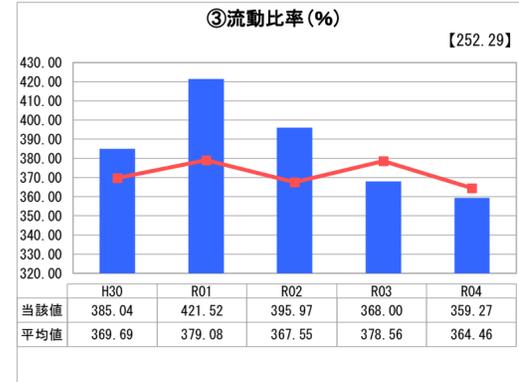
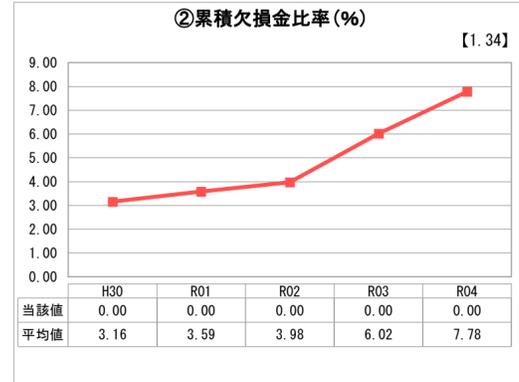
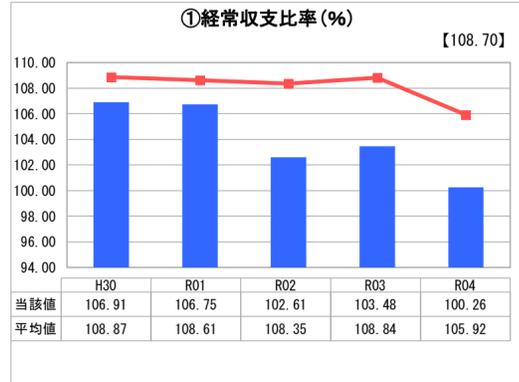
福井県 勝山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	63.85	96.09	2,585	

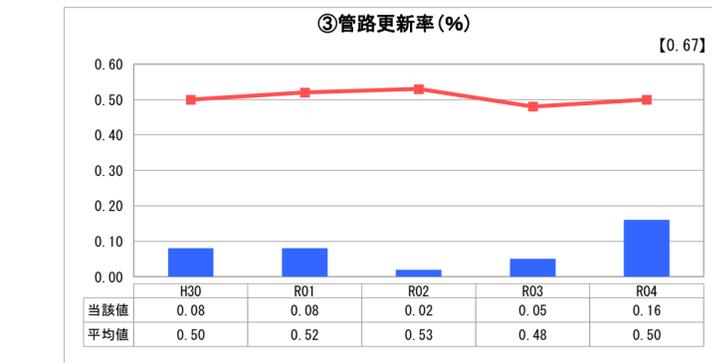
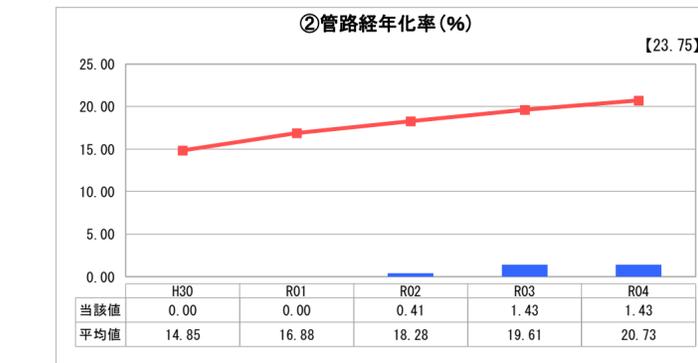
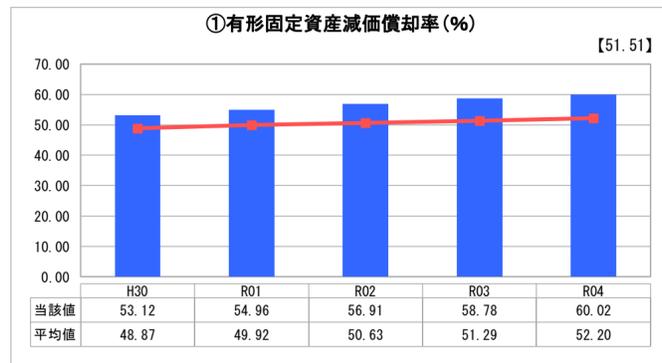
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
21,821	253.88	85.95
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
20,850	46.15	451.79

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を超えており、令和4年度は黒字となっている。しかし、類似団体平均値同様に資材等の単価上昇による影響から、前年以前と比較し比率が減少していることから、更なる費用削減を行う等、健全経営に努める必要がある。

②平成24年度に水道料金値上げをしたことにより累積欠損金は発生していない。令和3年度に料金制度審議会を開催し現在の料金を据え置くこととなったが、経営収支比率が減少傾向であることから、安定した経営を目指して経営改善を図っていく必要がある。

③流動比率は100%以上であり短期的な債務に対する支払い能力はあるといえるが、企業債に係る流動負債がピークを迎えている中、比率減少が想定される。

④企業債残高対給水収益比率については、簡易水道の統合により企業債残高が増えたことから比率はピークを迎えている。また、R4より水道管や施設の更新・耐震化を行っており、今後残高増加が予想されるため長期的な更新計画を行う必要がある。

⑤⑥料金回収率は100%を下回っているが給水原価が上昇しているため、さらなる費用削減を行う他、料金改定を視野に健全経営に努める必要がある。

⑦1日平均配水量と1日配水能力の差が大きいことから、施設規模に対する利用率は低くなっている。今後は、アセットマネジメント等による適切な施設管理に努めていく必要がある。

⑧平成30年度より漏水調査および修繕を大規模に実施しており、有収率は上昇傾向であったが令和4年度は豪雨災害や凍結破損による漏水が多くみられた。

2. 老朽化の状況について

①耐用年数を迎える施設が増加していることから、有形固定資産償却率が増加している。アセットマネジメント等による長期的な更新計画を元に、財源の確保など経営とのバランスを取りながら、効率的な更新に取り組んでいく必要がある。

②昭和60年の下水道布設時に水道管の布設替を行っているが、令和2年度より耐用年数を経過した導水管や送水管があらわれはじめた。その他の管路も耐用年数が近づいていることから、アセットマネジメント等による長期的な更新計画を元に、令和4年度から耐震化を主とした管路更新をおこなっている。

全体総括

今後も人口減少が続くと見込んでおり、給水収益の減少が事業経営に及ぼす影響は大きい。また、簡水から統合した施設の維持管理費の増加や既存施設・設備の老朽化など、取り組むべき課題も多く、電気や資材等の単価も上昇していることから、事業運営は一層厳しくなることが想定される。令和3年度に開催した料金制度審議会では現在の水道料金を据え置くこととなったが、継続して長期的な経営計画の検証を行うとともに、効率的な事業運営、適正な料金水準の算定及びそれに伴う料金改定等を検討し、経営改善を図っていく必要がある。